

発言No. 4

受付No. 6

令和8年8月18日

10時35分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 19番

氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

☐ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員

☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. ひきこもり支援について

- ① 7月に会派視察でひきこもり支援について、宇部市、並びに事業を委託されているNPO法人「ふらっとコミュニティ」に視察に伺った。

現在、宇部大学名誉教授で、ふらっとコミュニティの理事長である山根先生が実施されている取組は「山根モデル」と言われ、全国でも注目され多くのマスメディアでも取り上げられている。

家族への支援からはじまる4段階のアプローチで、社会参加につなげる取組は、県外からも相談が殺到しているようで、疲弊した家族に手を差し伸べておられ、藁をもつかむ思いで私たちにたどりつかれたのにお断りすることはできないと、対応されている。

基本となる心理教育には多くの受講者が参加され、島根県からの参加もあるようだ。また、宇部市をはじめ県内3か所に本人たちへの居場所を設置されている。

当日は、様々な相談対応の具体例を紹介していただきながら、ひきこもり支援の課題や本質的な改善事例など伺うことができ、ぜひ家族や支援をされている方々への情報提供ができたかと強く感じたところだが、所見を伺う。

- ② 山根先生は全国各地域にも出向かれ講演会なども行っておられるようで、ぜひ当市や当圏域にもお招きして講演会など実施できるような検討をすべきと思うが、所見を伺う。

2. リンパ浮腫支援について

- ① がんの術後に発症するリンパ浮腫という重い後遺症に悩まされ、孤立している患者が少なくなく、全国患者数は15から20万人と推定されている。リンパ浮腫は、乳がんや子宮がん、卵巣がん、前立腺がんなどの手術でリンパ節を切除したり、放射線治療を受けたりした後にリンパ液の流れが滞ることで、手や足が象のように著しく腫れ上がる疾患である。

リンパ浮腫に対する現状認識と市内患者の状況を伺う。

- ② リンパ浮腫を発症した患者は、一度発症すると完治が難しく、放置すれば重症化し、激しい痛みや発熱を繰り返すなど、日常生活や就労に深刻な支障を来す。また、重い荷物が持てない、長時間同じ姿勢を続けることが困難である、治療や症状コントロールのために日中に弾性着衣の脱着やケアを行う空間が必要であるなど、日常生活はもちろん就業時にも制約を生じる場合もある。

さらに、周囲にも病名を打ち明けられずに孤立するなど、精神的なダメージも大きくなる。

そこで、リンパ浮腫という疾患の特性等を広く周知・啓発することが必要でリンパ浮腫患者の相談体制も強化すべきと考えるが、所見を伺う。

3. 石見神楽保存・拠点施設整備について

- ① 今回のアンケートの結果を今後どのような過程で生かしていこうとされているのか伺う。

- ② アンケートに付けられていた資料編の書面では整備費31億円の基本案に合わせ、圧縮案など3案が示されているが、アンケートでは31億円の整備のみの問いとなっている。3案提示しなかったのはなぜか。

- ③ これまでも検討されてきた他施設との複合の案になると、さらに経費は削減されると思うが、所見を伺う。

4. 学校給食費の負担軽減事業について

- ① 今年度から、小学校児童の給食費について、一人 5,200 円が国から交付され、保護者の負担軽減が実施されている。

3 月定例会議の予算決算委員会でも取り上げたが、学校に行けない児童との不公平が生じるのではないかと質疑したが、「国の一律の基準はなく判断は自治体に委ねるとされている」とのことだった。今後、他の自治体の確認など研究をするとのことだったが、対応の現状を伺う。

5. 投票支援の取組について

- ① 高齢化などで投票所までなかなか行きにくい、公共交通もない、自家用車もなかなか運転できないということで、行けない人がどんどん増えていくことが想定され、これまでも何度もこの投票支援の取組を伺ってきたが、投票に行きたくても行きにくい実態の受け止めについて伺う。

- ② 最近行われた選挙の投票率についての評価を伺う。

- ③ 浜田市が他地域に先駆けて実現された移動投票所について、同様に取り組む自治体も全国的に増えているようだが、その状況についてどのように受け止めているか伺う。

- ④ 移動投票所の取組は、投票支援にとっても有効な手段と思う。

現在、浜田市が行っているのは投票所の統廃合を行った地域への期日前投票として実施しているが、それ以外の地域での実施が検討できないか伺う。